

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教の為に祈り、御支援くださっていることを心から感謝致します。

2018年元旦の朝は4名で礼拝を捧げ、新しい年をスタートしました。

その中のお一人はまもなく牡鹿半島の以前住んでいた場所に家を新築して戻られます。教会から車で40～50分かかるところです。

支援活動で地元の方々をつながりを持たせて頂いている石巻教会は、夏祭りやコンサート等には毎回50名以上の方々が集まってくださるのですが、普段の礼拝に出席される地元の方は片手で数えるくらいです。「礼拝は信者が行くもので、自分(の家)は仏教だから…」とやんわりと断られ、そのハードルは高いと感じていました。

しかし、10月の「三周年記念礼拝」ではチラシを作り、コンサートや「お茶っこ会」に来られている方々を訪問し、お誘いしたところ26名の地元の方々が出席されました。

私たちは「あれ！ あの方も来てくださるんだ…」と目から鱗でした。

さらに、11月から12月には急な話しが二つも舞い込み、準備もままならぬままの特別な礼拝を持たせて頂きました。

一つは11月26日のコンサート礼拝。もう一つは、12月10日の被災地支援活動団体レインボー・ハート・プロジェクトとの礼拝でした。

特に12月10日の礼拝は、その三日前に飛び込んできた話で、前日の夜に電話でお誘いしたり、当日朝もご近所の「お茶っこ会」のメンバーに声をお掛けして廻りました。すると21名の礼拝となりました。

このことを通して、大きなコンサートも大切ですが、3ヶ月、いや2ヶ月に1度、礼拝に誘える企画を考え、お誘いしたい…そう思うように導かれていきました。

「どうすれば、礼拝に来て頂けるのか？」の問題に、一つの光を見たような気がしました。

お誘いすれば、義理堅いこの地の方々は、たとえ今までの支援のお礼という気持ちであったとしても礼拝に来られ、福音に耳を傾けて頂けます。主の知恵を頂き、祈りながらの日々です。

『あなたのパンを水の上に投げよ。

ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。(伝道者の書 11:1) 』

11月11日は石巻クリスチャンセンターの献堂式でした。

その会場で「女川恵みプロジェクト」のアンディー・ギルバート師から「兄の教会の賛美チームが来るのだが、石巻教会で奉仕できるだろうか？」と尋ねられました。

日時は2週間後の11月26日。果たして準備ができるのか…と、私の心には不安がよぎり「祈ってからお返事します。」とお答えしました。

しかし、祈っているうちに、被災地に建てられた教会であるからこそ、主はゴスペルバンドチームを送ってくださるのではないかと、準備時間がないからと言って、主が与えようとしておられるチャンスを私はつぶそうとしているのではないかと、思わされました。

そこで、メッセージをチームのポール・ビショップン師にお願いして賛美礼拝とすることにし、ギルバート師と打ち合わせをしながらすぐに準備に取り掛かりました。

ポール・ビショップン先生は宣教師の御子息で17歳まで福島で過ごされ、震災直後から支援活動で何度も来日されておられます。流暢な日本語のメッセージの冒頭では「私は東北人です」と自己紹介されて人々の心を一瞬のうちに掴み、「聖書の神について」分かりやすく語っていただきました。その語られたメッセージは今この地の方々に必要な神の愛のメッセージでした。

またバンドのメンバーも「年配者が多いので日本語の賛美が1曲あれば良いのですが…」というリクエストに、急きょ「いつくしみ深き」を日本語で練習していただき、当日は一緒にみんなで賛美しました。そのほかは英語の賛美でしたが、終了後、皆さんに聞いてみると、言葉が通じなくても思いが伝わって来て、素晴らしかったと言っておられました。

言葉の壁を越えて聖霊が豊に働いて下さった礼拝でした。

また、バンドの若いメンバーお二人は「宣教師となって再び宮城に来たい。」と語っておられたそうです。

今回の伝道コンサート礼拝を通して私は、主が備えてくださるチャンスを自分の思いで退けてはならないことを教えられ、すべては主の働きであることを再認識させられました。

『神のなさることは、すべて時にかなって美しい。(伝道者の書3:11)』



〔賛美礼拝のご案内〕

皆様お変わりございませんか。
震災時、石巻支援で来日されたポール・ビショップ
師とゴスペル・バンドをお迎えして賛美礼拝を行います。
ぜひお越しください。お待ちしております。

と き：11月26日(日)

じかん：午前10時30分より

いしのまきふくいんじゆうきょうかい
ところ：石巻福音自由教会

説教者：ポール・ビショップ (Paul Bishop) 師



ゴスペル・バンドによる賛美演奏

※昼食にカレー (100円) を用意しております。

981-2111 石巻市三和町 6-3 電話:0225-25-1705



参加者：地元の方が27名、奉仕者を含め
45名の賛美礼拝となりました。

クリスマス礼拝

高橋勝義

今年も石巻教会の会堂には仙台教会パッチワークメンバーのクリスマスツリーが飾られ、あたたかな雰囲気の中でクリスマスの礼拝に来られた皆さんをお迎えしました。別室では全国の教会から送られてきた祈りと愛が込められたクリスマスプレゼントも出番を待っています。

そんなクリスマス礼拝の朝、いつもコンサートなどに来られている男性が玄関に入るなり「ビンゴはあるのか」と聞いてきたので、私は笑顔で「ありません」と答えました。

それでも帰る様子はなく、礼拝とランチを最後まで残っておられました。

この日、地元の方37名と仙台から来てくださった2組の御夫妻を含め奉仕者7名、計44名で救い主の御降誕を祝い、礼拝をお捧げしました。

震災から6年、近隣の教会ではビンゴや無料食事をやめたとたん、人々が教会に来なくなったという話を聞いています。

つい、いつも来てくださる人々の動機が気になってしまいましたが、人々を送ってくださるのは主です。そして人々を救いに導いてくださるのも主です。

たとえ、目的が支援やプレゼントにあったとしても、礼拝はもちろん各集会では、必ず聖書の話しがあり、それを承知で人々は来られています。そしてメッセージを聞いて行かれます。

『聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。(ローマ10:14)』とあるように、その使命に忠実でありたいと願わずにはられません。

また、礼拝後のクリスマスランチでは仮設支援から親しくさせていただいている地元漫談家の方が漫談とクイズを、また石巻教会の姉妹がトーンチャイムの演奏をしてくださいました。

教会のキャッチフレーズである『あなたの街のあなたの教会』が、少しずつ前進していると感じました。



ハヤシライスとデザートของクリスマスランチ



地元の有名人「袋小路 ほら丸」氏の漫談



〔クリスマス礼拝〕
 参加者：
 地元の方が37名、奉仕者を含め44名となりました。
 〔キャンドルライトサービス〕
 参加者：9名

最後はトーンチャイムの伴奏で「きよしこの夜」を賛美しました。



今年も全国の福音自由教会からたくさんのクリスマスプレゼントが届きました。120個のプレゼントを石巻の方々にお届けできました。心から感謝します！

〔クリスマスプレゼント及びクリスマス献金を送って下さった教会〕ありがとうございます。
 東村山 EFC・福岡 九大学研都市チャペル・鳩ヶ谷 EFC・蕨 EFC・名古屋 EFC・洛西上里チャペル・川口 EFC・川越 EFC・武蔵野 EFC・草加 EFC・浦和 EFC・流山 EFC・戸田 EFC・八潮ホープフルチャーチ・けやき通りキリスト教会・新松戸 EFC・高槻 EFC

主の聖名を賛美します。

マグニチュード9.1の東日本大震災が起こり、それにもまして、未曾有の大津波が襲った石巻は、あちらこちらが水浸しであり、その泥水は生臭さく、コバエが飛び交っていました。

そのようなところに、日本中からお送りいただいた被災地支援の物資をお届けしました。地理もわからず、どのようにお配りすればよいのかもわからないまま、最初はとにかく、物資を詰め込んで被災地に向かい、必要な方にお渡しする作業に明け暮れました。また、教会員の知り合いや、連絡がついた施設にも持って行きました。そしてある時から青空市場と称して、つぶれた店や空き地など、ブルーシートを広げられると思えばどこでも、物資を並べ、一人5点あるいは10点の制限をつけてお配りするようになりました。



現在の石巻教会のすぐ近くにあった、看板が残っていた高安酒店では、使用の快諾を頂いて、駐車場で青空市場を開いたのですが、後日、酒店のご主人の高橋様から、「この間は来てくださり、本当にありがとうございました。本当に励まされました。生きる力が湧いてきました。今これは、ガレキの下にあったはがきで書いています。」とお葉書を頂き、私たちの方が、どんなに力づけられたかわかりません。どうしたらよいかわからずにさせていただいた事が、こんなに喜ばれていることを知って、大変励まされ、その後何回もその駐車場で青空市場を開かせていただきました。そしてその年のクリスマスには、酒店全体を使わせていただいてクリスマスキャロルを歌い、短く聖書のお話をさせていただき、皆様からの様々な贈り物によって、クリスマスプレゼントを二百数十名の方に差し上げることが出来ました。寒い夜空にクリスマスキャロルを捧げたことを懐かしく思います。



またこの支援活動—石巻訪問は、不思議の連続でした。それは、一日たりとも青空市場を開く事が出来ない天候の日はなく、行かせて頂いた日は必ず晴れたことです。たとえ予報が大雨や嵐、通行止めでも、石巻に着くと、必ず晴れ、物資配布が終わると雨が降り出すということが、何度もありました。「こちら仙台がどのような天候であろうとも、石巻では必ず守られる。」それは揺るがない確信のようになっていました。雨の仙台を出発し、石巻に近づくにつれ晴れてくるのですから、あたかも出エジプトに際し、神様が雲の柱、火の柱となって民を先導してくださったようであり、この物資配布に神様が伴い、導いてくださっていることを確信させられる日々でした。

ところが、ついにそれが崩される日が来たのでした。仮設住宅が出来つつあった頃のことです。石巻に着いてもとうとう雨は止まず、青空市場を開くことが出来ない状況がやってきたのでした。仕方なく、近くの仮設住宅を訪問し、物資配布に使える場所がないかをお尋ねしたのです。

集会所の使用は、届け出制になっており、急には使えない決まりだったのですが、ちょうど訪問した部屋の方が、集会所の鍵を預かる係の方で、急遽集会所を使わせていただき、初めての仮設住宅での物資支援となったのです。それは神様からの新しいチャレンジであり、方向転換の印だったようです。その時以来、物資支援は、仮設住宅での集いとなりました。そしていつしか物資支援だけではなく、交わりをし、仕えさせていただき、神様の愛を届ける集会が行われるようになって行ったのでした。さらには、少しずつ生活が整えられて来ると、物資支援だけではなく、心のケアの必要が強く感じられるようになりました。



最初は警戒心を持って迎えられていた教会の活動も、損得を超えて、自分たちのためにやって来るクリスチャン達の姿を見て、キリスト教に親しみを抱くようになったようです。そのころよく聞いた言葉は、「キリストさんはこの前も来てたね。今度はいつ来るの。」でした。こうして賛美や祈り、キリストをあかしすることも出来るようになったのですが、一方で、集会所での宗教活動は困ると言う方もおり、霊的な支援を自由に出来る場所の確保が緊要であると感じさせられるようにもなりました。

そんな中で、現在教会が建っている三和町の空き地のことが気にかかるようになって参りました。実は隣家のT氏宅では、津波は庭までで家の中には入らなかったこととお聞きしていたのです。「津波はここまでだったのか」という思いと、「ここなら、今まで仕えさせていただいた仮設住宅や青空市場の真ん中であり、しかも牡鹿半島や女川にも近く、継続して支援するには、ちょうど良い場所である」という思いが出てくるようになったのです。特にその場所が、60坪450万円で売りに出されていることを知ると、もしかすると、神様はこの場所をお与えになろうとしているのではないかと思うようになりました。

しかし同時に、まだまだそれどころではないという思いと、津波がある前の3月6日に、仙台教会で東北宣教祈り会が行われ、津波を受けた町々のために祈っていたことを思い出し、もしかするとこの町に教会を築くこと、宣教に出て行くことをこれらは示唆していたのかもしれないという思いとが交錯するようになりました。そして少しずつ、可能性がないかを探るようになって参りました。



仙台の不動産会社にこの件を問い合わせところ、実は隣も売りに出されており、2区画併せて120坪であることが分かりました。60坪だけでは、将来的にこの地で、教会を建て上げて行く事は難しいかもしれないと思っていましたので、2区画なら大きな可能性があるように思い始めました。

はやる心を抑えて、もし御旨にかなわないなら閉じてくださいと願い、同時に、御旨なら是非与えてくださいという複雑な思いがありました。両方の思いを持ちながら祈っていたのです。ダメなら早く売れてしまえばいいと思いながら祈り、1年近く経ったでしょうか。土地は売れておらず、拠点としての場所の確保の必要性から、一步進めてみることにしました。福音自由教会協議会として始められたミニストリー制により、東北宣教の第三の教会として、会堂建設を含めた土地購入を、協議会役員会に相談したのです。

その結果、協議会に捧げられた支援献金の一部と、使い方を指定されていない仙台教会に送られてきた支援献金で、土地購入と会堂建設に向かう基盤が出来たように感じ、全国の福音自由教会に、石巻宣教ミニストリーの立ち上げと、協力をお願いをするように導かれました。

その時から、5年が経ちました。会堂建設に関しては、予算の大幅な膨張がありご心配をおかけしましたが、現在、三和町には会堂が建ち、そこに常駐の牧師である高橋先生ご夫妻が遣わされ、毎週様々な集会が開かれています。震災以来関わらせていただいていた方々がケアされ、訪問され、キリストのキの字も知らないといわれた渡波の地で、毎週礼拝が捧げられ、時には、百名を超える方々が集っています。何となく幸いかと思われています。



「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」(ピリピ2章13-14節)とありますように、小さな者の心に与えてくださった志を、主は、ご自身の真実をもって成し遂げてくださり、これからも成し遂げ続けてくださることを信じて御名をあがめます。

多くの方々にとって憩いの場となり、慰めと励ましが豊かに与えられ続け、そうして真の希望と喜びが与えられる場所として、石巻教会がこれからも用いられて行くことを続けて祈りたいと思います。

☆石巻宣教へのご支援と、お祈りを心から感謝します。